

Title	グループ経営における組織統合 - 関係会社統括組織の機能 -
Sub Title	
Author	高石薫 高木晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第853号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0853

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	高石 薫	主査	高木 晴夫
		副査	古川 公成
			森川 英正
所属	高木 晴夫 研究室		

グループ経営における組織統合 －関係会社統括組織の機能－

日本企業のグループ経営は、本業の成熟化、社会環境の急激な変化、価値観の多様性、連結決算への流れを受けて、グループをいかに統合していくかという課題を抱えている。これを今日的な視点で考察するには、第一に企業グループを親・子間の関係で捉えること、第二にグループに内包する関係会社がグループにおける役割を持っているという点において多様性を含んでいることの二点が重要であると考えた。

これまでの文献では、グループ経営は、従来の「管理」という発想から、「企業グループ」、「企業ネットワーク」という流れがあることが明らかになった。「管理」的視点は、親会社を中心とするピラミッド型のグループ像においては有効であったが、親会社をコアとし、高度に自立したグループ内企業の集合体である「企業ネットワーク」の時代にあっては、情報、人を統合の要とする緩やかな結合が適切であるというものである。

これに対し著者は、関係会社はグループにおいてある一定の役割を担っており、その役割に即して将来的に期待される自律性の程度が決まっているという立場にたって、グループは、自律性の程度が多様な組織の集合体であると考えた。この多様な関係会社群を統合するシステムとしての統括組織の機能について、親会社の統括組織に対するインタビューによる事例研究を通じて分析を行った。

その結果、①親会社は関係会社の自律性の程度にばらつきがあることを認識していること、②自律性の程度に応じてコントロールに変化を持たせていることが確認された。

従って、統括組織の機能として重要なのは、①自律性の程度が多様な組織を統括する機能、②自律性の高い企業における統合のコンテキストを形成する機能の2点であると考えた。さらに、調査を進める中で、統括組織の位置づけが企業によって異なることが分かってきた。そこで、それぞれのメリットとデメリットに着目し、親会社と関係会社の結合関係の強弱によって適合する組織があることを見いだした。従って、自律性の程度が多様な関係会社を統括する組織は、複数組織であるとの結論を下した。